

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービス はなうーる (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	R8年 3月 18日 ～ R8年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R8年 3月 18日 ～ R8年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	8
○事業所向け自己評価表作成日	R8年 5月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1. ・風通しの良い職場環境の定着と発展 ・職員アンケートや意見交換を継続的に実施することで、職場環境や業務上の課題を早期に把握し、働きやすい職場づくりにつなげていくことが期待される。 ・意見交換や提案制度を通じて、職員同士の相互理解や協力体制をさらに深め、組織全体のチーム力向上に繋がっていく。	 ・定期ミーティングや日常的な声かけを継続したことで、職員同士が安心して意見を発信できる環境がさらに定着した。 ・役職や経験年数に関係なく対話が行われ、現場の課題や改善案が早期に共有されるようになった。 ・意見の「見える化」を実施し、提案内容や進捗状況を共有することで、職員の主体性やモチベーション向上につながっている。	 ・若手職員や新任職員も発言しやすいよう、気軽に出来る意見交換の場を増やす。 ・職場環境への満足度や課題を継続的に把握する。 ・意見提案制度をさらに活性化し、優れた取り組みを共有する仕組みを整える。
2	2. チームワークと協働意識の向上 ・日常的なコミュニケーションや情報共有を充実させることで、職員間の信頼関係をさらに深め、円滑な連携やチーム支援の強化につながっている。 ・学びや実践を継続的に振り返る機会を設けることで、職員一人ひとりの専門性向上と、より質の高い支援の提供につながることが強みである。	 ・他職種でケース会議を丁寧に行うことで、情報共有の質が向上し、職員間の連携がよりスムーズになった。 ・多職種でのケース検討を継続したことで、様々な視点から支援を考える文化が根付き、支援の質向上につながっている。 ・互いにフォローし合う意識が高まり、急な対応時にも協力体制が取れるようになった。	 ・職種間交流や勉強会を継続し、専門性への理解を深める。 ・成功事例を共有する機会を増やし、協働による成果を全体で実感できるようにする。
3	3. 実行力と柔軟な対応力の強化 ・現場で得られた経験や気づきを職員間で共有し、実践に活かすことで、支援の質の向上につながっていくことが期待される。 ・日々の支援の中で柔軟に対応できる力をさらに高め、利用児童や保護者のニーズに応じた支援の充実を図っていくことが期待される。	 ・「まずやってみる」という姿勢を継続し、小さな改善活動を積み重ねることで、現場対応力が向上した。 ・職員発案によるミニプロジェクトを実施し、現場の課題に対して迅速に対応できる体制が強化された。	 ・日々の支援の中で得られた気づきや経験を積み重ねながら、現場の状況に応じた柔軟な対応力をさらに高めていくことが期待される。 ・小さな成功体験を職員全体で共有することで、挑戦しやすい雰囲気づくりや、主体的に改善へ取り組む意識の向上が期待される。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1. 意見の整理・優先順位付けに時間を要することがある	 ・職員から多くの建設的な意見が出る一方で、実施優先順位の判断に時間を要する場面が見られる。 ・新たな取り組みが増える中で、業務量とのバランス調整が難しい場合がある。 ・一部の取り組みにおいて、担当者間で進捗状況の共有不足が生じることがある。	 ・会議時に「優先度」「実現可能性」を整理する仕組みを取り入れ、方向性を明確化する。 ・年間目標や重点課題を定期的に確認し、全職員が共通認識を持って取り組めるようにする。
2			
3			